

廃校舎が「森の巣箱」に生まれかわる

～床鍋地区の住民による集落再生への挑戦～

高知県 津野町 森の巣箱運営委員会



旧床鍋小学校は、小さな巣に全国から飛来してくる小鳥たちを迎えることができるようにしようと「森の巣箱」と名付けられた。



昭和58年に廃校となった木造校舎を改築し、集落住民の思い出をそのまま閉じこめ、学校の懐かしい面影を至るところに残している。



20数年間、集落に店がない状態が続いていたが、森の巣箱に店(コンビニ)が出来たことで、日常生活が非常に便利になり、長年の住民の願いがかなった。

事例の概要

- 住民のアイデアを結集させ、地域のコミュニティ活動の拠点となる「居酒屋」や「集落生協」のほか、地域外の人々との交流を促進するための「宿泊施設」の機能を有する「森の巣箱」を完成させ、交流の拠点となっている。
- 森の巣箱の運営については、行政の手を借りず地区全員が参加する「運営委員会」を組織するなど、住

- 民自らの手ですべてを行っている。
- 平成16年からは、自然あふれる地域を知ってもらい、地域の環境を保全しようと「ホタルまつり」を住民からの発案で実施しており、今では来場者が1,500人を超え、津野町を代表するイベントに成長している。

評価のポイント

「森の巣箱」は、町が県の補助を受けて改修した廃校(旧床鍋小学校)を活用した農村交流施設である。木造2階建ての建物の1階には、日用雑貨や食料品販売コーナー、地域コミュニティ活動の拠点となる居酒屋がある。2階は、約25人が宿泊可能な宿泊スペースとなっており、地域外の人々との交流拠点としても活用できる。

「森の巣箱」という奇抜なネーミングや、オープン直後に旅行雑誌等で取り上げられたこと、都会の喧噪から離れ山によって隔絶された「隠れ里」のような趣のある施設は、都会人のハートを掴み、毎年の利用客は目標を上回り、年々増加している。また、

利用客は、県内小学生のスポーツ合宿やゼミ合宿から企業合宿や結婚式まで、幅広い。

このような取組を土台として、平成16年からは、自然あふれる地域を知ってもらい、地域の環境を保全しようと、「ホタルまつり」を住民自らの発案で実施した。今では、来場者が1,500人を超え、津野町を代表するイベントに成長している。

廃校を利用して活用する例は多々あるが、365日24時間空間が利用され、地域住民の日常生活を支えるコンビニや地域の憩いの場・交流の場としての居酒屋等、地元のライフラインとしても機能する複合拠点に生まれ変わった点が評価された。

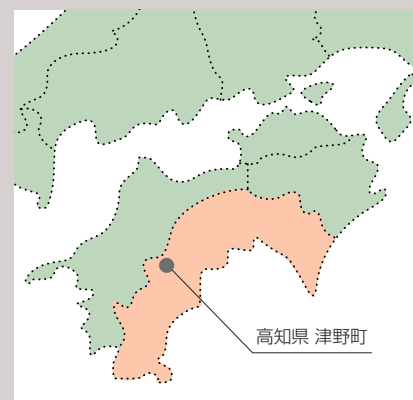


朝はコーヒーを楽しみ、昼はうどんやカレー、夜は仕事を終えた住民の憩いの場として居酒屋に変身。時には町外からの宿泊者との交流で盛り上がる。



県外から森の巣箱を訪れた男女が、自然に囲まれ温かみのある森の巣箱を気に入り結婚披露宴を行うなど、今までに集落を挙げて2組の男女の門出を祝った。

高知県 津野町(つのちょう)



国勢調査人口

昭和35年	昭和45年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
13,249	9,626	8,000	7,554	7,258	6,862

人口増減率

H17/S35	H17/S45	H7/H2	H12/H7	H17/H12	高齢者比率	若年者比率
△48.2	△28.7	△5.6	△3.9	△5.5	35.9%	12.2%

交通のご案内

自動車 高知自動車道須崎東ICから国道56号、197号経由約30分
 鉄道 JR土讃線須崎駅から車で約35分
 飛行機 高知龍馬空港から、バス約30分+JR約40分+車約35分(空港から車で約100分)

団体連絡先

農村交流施設 森の巣箱
 〒785-0210
 高知県高岡郡津野町貝ノ川床鍋392番地2
<http://www.vill.hayama.kochi.jp/subako2.htm>